

 AD Challenge Support

Official Guide

あいおいニッセイ同和損害保険
所属アスリートガイドブック

2019-2020版





選手を全力でサポート

当社の障がい者スポーツ支援の始まりは、今から13年前にさかのぼります。当時、障がい者スポーツを支援する企業はまだまだ少ない時代でしたが、2006年に車いすバスケットボール日本代表チームの公式スポンサーとしての支援をスタートしました。その後、日本障がい者スポーツ協会オフィシャルパートナーになり2014年より本格的にスポーツ振興、とりわけ障がい者スポーツ支援を重点的に取り組み、現在に至っています。特に、選手の活躍を「『観て』『感じて』『考える』」ことが大切であると考え、大会に足を運ぶことを取り組みの柱にしています。当社では年間約20大会を応援観戦に設定しており、全国で開催される大会に社員が応援に駆けつけ、また大会ボランティアとして参加するなど、全社員が一丸となってスポーツの魅力を伝える活動を行っています。現在では、代理店・扱者の皆さま、当社OB会の皆さまにも参加いただくなど、支援の輪が広がっています。2015年からスタートしたアスリート雇用も進展し、現在、パラアスリート14名、健常者アスリート5名、計19名の選手が在籍し業務と競技を両立しています(2019年8月1日現在)。もちろん、会社として選手の皆さんを応援するために、練習環境の整備や業務を通じた能力開発などをサポートしています。2019年4月にはプロランナーの川内優輝選手と所属契約を締結しました。川内選手を全力でサポートすることに加え、地域貢献・地域活性化を目指して川内選手とともに「マラソンキャラバン」を全国で展開しています。



選手の皆さんは、地方自治体と連携した地域での講演会や体験会などにも参加し、当社が行う地方創生の活動の一翼を担ってくれています。換言すると、選手の皆さんは地域に育てていただいていると、言えるかもしれません。当社のスポーツ振興、とりわけ、障がい者スポーツ支援を通じて、その輪が広がり、地域において共生社会への理解が深まり、社会課題の解決につながることを願ってやみません。選手の頑張りや活躍が、地域のお客さま、代理店・扱者の皆さま、そして社員に元気を与えてくれると確信しています。そして、会社も全力で選手を支え、双方向の良好な関係をますます築いていきたいと考えています。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
代表取締役社長 金杉恭三

Contents

2019年8月現在

ご挨拶	2
「観て」「感じて」「考える」 全社一体となっていくスポーツへの支援	4
パラ・アスリートの横顔紹介	9
競技団体に聞く	11

所属選手紹介

▼ ア ス リ ー ト	川内 優輝 (陸上・長距離)	12
	青木 智美 (水泳・競泳)	15
	小林 奈央 (水泳・競泳)	17
	成宮 唯 (女子サッカー)	18
	大滝 麻未 (女子サッカー)	19
	横山 亜依 (女子サッカー)	20
▼ 障 が い 者 ア ス リ ー ト	秋田 啓 (車いすバスケットボール)	21
	立川 光樹 (車いすバスケットボール)	23
	三宅 克己 (車いすバスケットボール)	24
	小野智華子 (パラ水泳・競泳)	25
	中島 啓智 (パラ水泳・競泳)	26
	宮崎 哲 (パラ水泳・競泳)	28
	前田 一成 (パラ水泳・競泳)	29
	窪野 一輝 (パラ水泳・競泳)	30
	白砂 匠庸 (パラ陸上)	31
	米津 秀樹 (パラ陸上)	32
	松元 卓巳 (ろう者サッカー)	33
	加藤 耕也 (パラ卓球)	34
	海老澤京子 (パラ卓球)	35
	萬木 信也 (パラ・ダンススポーツ)	36
石橋 元気 (視覚障害者柔道)	37	

編集・制作

産経新聞社 新プロジェクト本部
株式会社 産経編集センター



「観て」「感じて」「考える」

全社一体となって行うスポーツへの支援

スポーツを通じた共生社会の実現を目指し、あいおいニッセイ同和損害保険が取り組むスポーツ振興。とりわけ障がい者スポーツの魅力を伝え、さまざまな支援活動をすすめています。

その理念や活動方針、また、現在に至るまでの主な活動内容をご紹介します。

◆ 理念

「地域貢献に資する取り組みにより地域の発展に寄与」するとともに、「障がい者スポーツを通じた共生社会の実現」を目指します。

◆ 活動方針

「全国各地での取り組みを着実に具現化し、一つひとつカタチにする」ことを活動方針としています。

◆ スローガン：「観て」「感じて」「考える」

スポーツ支援の取り組みの柱である、大会応援を促すスローガンです。

◆ キャッチコピー

AD Challenge — すべてのスポーツ支援の取り組みが「AD Challenge」プログラムとして展開されています。



◆ 始まりは2014年のプロジェクトチーム組成から…

国を挙げたビッグスポーツイベントの開催が決まった2013年。翌年、経営企画部内に「プロジェクトチーム」が立ち上がりました。`企業スポーツ文化、のない当社にあって、まったくの白紙からのスタートでした。すでに車いすバスケットボール日本代表チームをスポンサーとして支援した(2006年)実績があったので、この経験をベースに2014年から「日本障がい者スポーツ協会」へ協賛を開始。「保険会社として何ができるか」を考えた結果、『障がい者スポーツ支援を中心としたスポーツ振興』がプロジェクトの柱に決まりました。現在では、障がい者スポーツの枠を超え、広くスポーツ支援を展開しています。

◆ まずは大会観戦・応援活動から

「スタンドが寂しいので応援に来てほしい」という関係者の声を受け、プロジェクトチームは「社員による大会応援観戦」を取り組みの第一歩に掲げました。社員に呼びかけると、いつもは寂しかったスタンドに多くの`応援団、が結成されました。今では年間約20件ほどの大会応援観戦を実施。1大会あたり平均約100人が参加しています。



◆ アスリート雇用の開始

応援するのであれば「心から応援できる対象がほしい」と考え、所属アスリートの雇用を検討。枠組みを構築し、2015年から採用を開始しました。「地域で頑張る選手」「引退後も継続雇用」の2つを基本方針としています。国内約700カ所ある拠点網を生かし、選手は将来のキャリアプランを考慮し、`競技と業務の両立、で頑張っています。



◆ 代理店・扱者と共に広げる支援の輪

現在は代理店・扱者の皆さまにも大会応援や競技の体験会に参加していただくなど、「障がい者スポーツ支援の輪」を広げています。お取引先企業で、当社所属のアスリートが講演する機会も増えています。

主要大会開催が少ない地方においては県の障がい者スポーツ大会への支援を行っています。県大会では、運営スタッフが少ないため、設営や運営などにボランティアとして積極的に参加しています。



◆ 教育支援 上智大学との連携講座

2017年度より上智大学と連携したパラスポーツ支援を開始しました。「パラアスリートと考える障がい者スポーツと共生社会」と題した産学共同の講座を開講し、当社社員が担当教員として講師を務め、従来にない臨場感のある授業を行っています。さらに、競技大会への応援観戦や学生向けのイベント企画など実践型の学びの場を提供しています。



◆ 「東京都スポーツ推進モデル企業」に4年連続で認定

2015年度から4年連続で「東京都スポーツ推進モデル企業」に認定されました。2018年度は東京都スポーツ推進企業266社の中から、特に社会的な影響や波及効果の大きい取り組みをしている企業等が表彰され、当社を含めて11社が認定されました。

※4年連続認定は当社のみ





◆ パラスポーツを通じた共生社会の実現に向けて ◆

自治体と連携した取り組みの事例

- 当社では、「スポーツ振興(特に障がい者スポーツ支援)」を重点項目として自治体との連携協定を促進しています。障がい者スポーツを通じた地域での活動が地域貢献そのものであると認識し、このような活動を長期的に続けていくことが求められると考えています。
- 具体的な取り組みとしては、当社所属アスリートを派遣し、講演会やパラスポーツ体験会を自治体と共に開催するなどしています。
- 参加された皆さまからは、「パラアスリートのお話を聞く機会は貴重であり、スポーツを体験することで理解が深まる。地域で今後も継続して実施してくれるとうれしい」といった声が多く寄せられています。



《講演会で選手が話す主な内容》

- ①自身の生い立ち
- ②障がいをいかに受け入れたのか
- ③どのようにパラスポーツに出会ったか
- ④これまでどのように頑張ってきたか
- ⑤競技を通じた日本と世界の差 など

- 体験会では、アスリート自身の競技を参加者の皆さまが実際に体感することで、障がいの有無に関係なくスポーツの素晴らしさやパラスポーツ競技の魅力を伝えています。

「あいおいニッセイ同和損保 presents チャレンジプログラム」

小・中学校での体験授業の事例

- 当社では、子どもたちに「生き方」「夢を持つこと」を伝える教育を実践することを目的とし、当社所属アスリートが講師となり、小・中学校の出前授業を展開しています。障がい者スポーツを通じて、次代を担う子どもたちへの共生社会の理解教育に一役買っています。



《具体的な事例》

1 回目: 講演会

対象 全校生徒 **趣旨** 夢を持つこと、夢を諦めないことの大事さを訴求

2～3 回目: パラスポーツ体験(体育授業)

対象 学校が指定する学年 **趣旨** パラスポーツを知り、誰もができることを理解する。加えて、障がいがある人もない人も同じステージで活動ができることを理解する

給食: 子どもと給食を摂りながらコミュニケーションづくり

- 子どもたちへの教育というだけでなく、保護者への共生社会の理解など波及効果が大きいと感じています。そのためには保護者の皆さまに直接観ていただくことも有効です。

◆「スポーツ振興」取り組みの年表

2006	・(一社)日本車いすバスケットボール連盟に協賛、日本代表チーム支援を開始
2014	・プロジェクトチーム組成:スポーツ振興、とりわけ障がい者スポーツ支援を展開 ・大会応援プログラムを開始 ・ウェブサイト(AD Challenge Support)を開設 ・(公財)日本障がい者スポーツ協会オフィシャルパートナー締結 ・(一社)日本パラリンピアンズ協会に協賛
2015	・アスリート雇用を開始 ・新入社員研修に「障がい者スポーツ講座」を導入 ・(公財)日本障がい者スポーツ協会への人材派遣を開始
2016	・リオデジャネイロパラリンピックに当社選手が出場 小野智華子選手(パラ水泳/人事部)、宮崎哲選手(パラ水泳/北海道支店) ・所属アスリート向け定期研修会を開始 ・小・中学校向け体験授業「チャレンジプログラム」を開始 ・(一社)日本身体障がい者水泳連盟オフィシャルスポンサー締結
2017	・自治体と連携したバラスポーツプログラム、講演・体験会への支援を開始 ・バラアスリート・スカラシップ制度を創設 ・上智大学ソフィア・オリンピック・パラリンピック・プロジェクトと連携
2018	・上智大学との連携講座設置 ・ボランティアセミナーを全国で開催 ・アジア競技大会に当社選手が出場 青木智美選手(水泳・競泳/経営企画部) ・アジアパラ競技大会に4選手が出場 小野智華子選手(パラ水泳/人事部)、宮崎哲選手(パラ水泳/北海道支店)、 中島啓智選手(パラ水泳/千葉北支店)、秋田啓選手(車いすバスケ/中部損サ三部) ・日本身体障がい者水泳連盟とリスクコンサル契約一危機管理マニュアル策定 ・4年連続で東京都スポーツ推進「モデル企業」に認定 ・2年連続でスポーツ庁「スポーツエールカンパニー」に認定
2019	・川内優輝選手(陸上・マラソン)と所属契約 ・世界選手権日本代表に当社所属4選手が決定 青木智美選手(水泳/経営企画部)、中島啓智選手(パラ水泳/千葉北支店)、 白砂匠庸選手(パラ陸上/広島支店)、川内優輝選手(陸上)

◆ ウェブサイト・SNSの情報発信

障がい者スポーツの素晴らしさを知っていただくため、障がい者スポーツ応援サイト「AD Challenge Support」を運営しています。

《HP URL》 <https://www.challenge-support.com>

《facebook URL》 <https://www.facebook.com/adchallenge/>

HPは
こちらから



facebook



パラ・アスリートの横顔紹介

仕事と競技を両立させ、周囲に新しい風を届けているあいおいニッセイ同和損害保険のパラ・アスリートたち。支え、支えられ、目標に向かう姿を、身近な人たちからのメッセージでご紹介します。

小野智華子 選手

パラ水泳/人事部

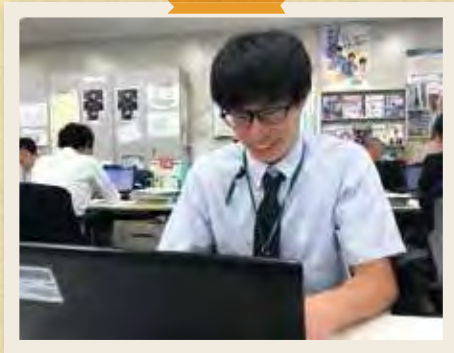


職場の上司、同僚から

- ・ささいな質問に対しても、自分の意志をしっかり持った的確かつ明確な返答をしてくれます。アスリートとして常に挑戦し続け、努力しているからこそ、凛とした強さがにじみ出るのではないかと思います。
- ・小野さんの明るく親切的な性格は、マッサージにも良く表れています。丁寧な施術はもちろんのこと、「あ！また腰が凝ってますね…」 「なるべく痛くないようにしていますが、どうですか？」などと合間にたくさん話しかけてくれます。気さくな小野さんにつられて、こちらもとてもリラックスできます。
- ・接する人みんなに元気とパワーと勇気を与えられる、“生きるパワースポット”のような存在。
- ・話しかけるときはまず自分の名前を名乗る、歩行介助するときは肩や肘を掴んでもらうなど、小野さんと一緒に働くことで全盲の人への自然な接し方を学べました。

中島啓智 選手

パラ水泳/千葉北支店



お母さんから

- ・あいおいニッセイ同和損保の社員になったことで、自らコミュニケーションを取ろうとするようになりました。自分のペースではあるものの、入社以来大きく成長したなど感じています。
- ・会場で多くの社員の皆さんが声援を送ってくることが本当にありがたいです。職場の理解があることで、「もっと頑張ろう」という本人のモチベーションにつながっていると思います。

職場の上司、同僚から

- ・アスリートということもあり、集中力が高く、与えられた仕事が終わるまで、一気にやり切るタイプ。
- ・中島選手が来てくれたおかげで職場の雰囲気が明るくなりました。
- ・今までスポーツ観戦などしたことなかったが、中島選手を応援しているうちに心身ともに鍛えられるスポーツの素晴らしさや、その迫力に虜になってしまった。これからの活躍も期待しています！

宮崎哲 選手

パラ水泳/北海道支店



ご両親から

- ・会社の行事の中で、人前に立って話をする場面を見ていると自閉症であることを時として忘れてしまいます。自分の言葉でしっかり話すことができるようになった姿を見て、とても成長したなと感じています。
- ・一社会人として勤務しながらスイマーとして練習に打ち込む姿を見て、自分たちも頑張ろうと刺激を受けます。
- ・哲の存在が、周囲の方の心理的な壁を低くしているように思います。

職場の上司、同僚から

- ・他の社員が乱雑に書類や新聞等を積み重ねていると、いつの間にかピシッと整頓している！ ありがとう！
- ・弁当箱が大きく、さすがアスリート！という感じです。
- ・周囲の人を惹きつけて、味方や応援団にしていく天賦の才を持っています！

松元卓巳 選手

デフサッカー/福岡支店

職場の上司、同僚から

- ・急な業務を頼んだときでも嫌な顔ひとつ見せたことがなく、いつも「みんなの助けになる仕事をしたい」と前向きに取り組む好青年。
- ・エレベーターではなく階段を使う、コーヒーではなくプロテインを飲むなど、アスリートとしての心がけは片時も忘れていない！
- ・飲み会になると明るいキャラクターで場を盛り上げてくれる。時にはコスプレも披露するはっちゃけキャラ！

手話教室※の参加社員から

- ・限りなく優しい。ちゃんと手話ができると、「あっ、そうです！〇〇さん、すごいですね！」と名前を呼んでくれて、キラキラの笑顔付きで褒めてくれます！
- ・教え方がとても上手で、わかりやすいです。途中で入塾してもわかるように丁寧に教えてくれます。

※松元選手は職場で定期的到手話教室を開催しています。



立川光樹 選手

車いすバスケットボール/長崎支店



職場の上司、同僚から

- ・コート上の立川選手は、仕事中の穏やかな様子からは想像できない勝気なプレーが魅力的です。体格の大きな選手相手でも一歩も引きません！
- ・シャイで真面目ですが、内に秘めた熱い心を持っているという印象です。頼んだ仕事を素早くこなしてくれますし、退社ぎりぎりの時間まで仕事を頑張ってくれています。
- ・笑顔のかわいい癒やし系、顔からは想像のつかない鍛え上げられた筋肉美！
- ・新人歓迎会の二次会で、ゆずの「栄光の架橋」を歌ってくれましたが、感動して鳥肌が立ちました。

競技団体 に聞く

パラ・アスリート雇用を積極的に進めるあいおいニッセイ同和損害保険。競技団体の方にはどんな風に映っているのでしょうか。一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟の櫻井誠一常務理事に聞きました。

Q. パラスポーツ支援の活動について

アスリート雇用、大会応援、連盟への協賛、スカラシップ制度など、総合的な取り組みをしている企業は少なく、貴重な存在です。とりわけ、パラ・アスリート雇用を積極的に推進し、多くの大会に社員の皆さんが足を運んでいただく企業はほかにありません。

Q. 選手が入社した後、「成長したな」と感じることは？

基本的なことですが、挨拶がきちっとできるようになったと思います。また、普段は東京ではなく地方で仕事をしているアスリートが、大会時にわざわざ当連盟役員に状況報告や挨拶に来てくれる。しっかりアスリートを教育していると思います。

Q. アスリート雇用制度について

仕事と競技の両立を基本とすることは、選手たちが引退後も社会人として成長していくためには必要なこと。練習だけをするのではなく、業務と両立することは後々の人生にとっても大きなプラスになると確信しています。

Q. あいおいニッセイ同和損害保険のパラスポーツ支援に一言！

大会時に多くの社員が応援に来ていただけることが最も素晴らしい！社員の一体感を感じます。所属選手の応援が主であっても、会場に多くの社員の方が訪れてパラ水泳を応援いただけることは、他の選手にとっても励みになっていると感じています。

川内 優輝

YUKI KAWAUCHI

陸上
長距離



日本、そして世界を駆け回る オンリーワンのプロランナーに

努力と工夫で日本陸上界の常識を覆し、`史上最強の市民ランナー、と称された川内が、あいおいニッセイ同和損害保険に所属。`オンリーワンのプロランナー、を目指し活動をスタートさせた。

『マラソンキャラバン』で地域活性化に貢献したい

川内が所属を決めた理由は「マラソンキャラバン」。マラソン大会を通して地域と交流、還元し、地域それぞれの社会課題に取り組む全国行脚プロジェクトだ。川内は、「私が考えるプロランナーとは、大きな大会で結果を出すだけでなく、生の走りを地域の方々に見てもらいたい。『マラソンキャラバン』は、オンリーワンのプロランナーになるという夢の実現へ、ピビッとくるフレーズだった」と相思相愛ぶりを強調した。

これまで招待選手やゲストランナーとして200回以上、一般参加なども含めると540回以上のレースに参加する中で「このスタイルこそ、地域の方々に喜んでいただける方法」と結論付けた川内。「地域活性化の大きなムーブメントとして、私一人ではでき

ないさまざまなことを、会社の力を借りて一緒に日本全国に展開したい」と願っている。

「楽しく走る」で困難を克服。プロ転向を決意

春日部東高時代の川内は相次ぐ故障に泣き、全国高校駅伝など大きな大会に出場できなかった。また父親の急死も重なり、人生に対する考え方も変わった。その中で「環境を変えて、楽しく走りたい」と、市民ランナーとして走り始めた。



プロを意識するきっかけは、2017年のロンドン世界陸上だ。10日間も現地に滞在。競技に集中できる日々を過ごした。9位で帰国後、「ロンドンでの充実した日々が頭から離れなくなってしまった」という川内は、再びあの環境に身を置きたいという気持ちを抑えられなくなった。そんな中、先にプロに転向した弟が、自己ベストを約5分も縮めた。「私も人生最後の夢を追いかけてたい。今決断しなければ、一生後悔する」。川内の決意は固まった。

自己記録更新と世界陸上のメダルを目指す

プロランナーに転向した最大のメリットは「時間」だという。公務員時代は、大会や合宿で職場を離れるにも「同僚に迷惑をかけたくない」ため、長くても3泊4日。しかし今年は、夏の北海道・釧路で約2カ月の長期合宿を実現させた。「人生初」という長期合宿で、今シーズンの飛躍に手応えを得ている。

掲げる目標は2つ。1つは自己ベスト（2時間8分14秒）の更新と2時間7分台の達成だ。「ずっと思い続けてきた目標。市民ランナーでは届きそうで届かなかったので、必ず達成したい」と意気込む。そのため、スピードの強化と同時に、走り込んでスタミナと自信をつける。2つ目は21年ユージーン世界陸上でメダル獲得だ。前回のロンドンでは8位入賞まで3秒に迫った。2年半かけて競技力を強化し、入賞にとどまらず、表彰台を目指す。

そしてもう1つ、大きな夢がある。`全国走破、だ。「47都道府県のうち40まで招待選手として走った。『マラソンキャラバン』で制覇したい」と川内。自身の目標を達成する過程で得た経験や知識を、「マラソンキャラバン」を通じて日本全国に広めたい。究極の夢の実現へ、プロランナー・川内が走り出した。



「マラソンキャラバン」を全国展開！

「マラソンキャラバン」とは、マラソンを通じて日本全国を盛り上げ、地域貢献につなげようという川内選手と当社が共同で取り組む全国行脚プロジェクトです。具体的には、川内選手が出場する草の根レースを当社の各拠点が支援、大会運営をサポートする

とともに、自治体と連携してキャラバンブースの設置、講演会やランニング教室などのイベントを開催し盛り上げを図ります。

活力ある地域の実現に向けた支援、地域貢献につなげることを狙いとしており、4月の「川内の郷かえるマラソン」（福島県）を皮切りに、全国で開催しています。



主な取り組み内容

- ①川内選手出場
- ②キャラバンブース設置
(川内選手使用ウェア、シューズ展示など)
- ③あいおいニッセイ同和損保社員による大会ボランティア参加
- ④川内選手サイン会・写真撮影会
@キャラバンブースにて

<プラスワン企画>

- ⑤川内選手 講演会、トークショー、ちびっこランニング教室等イベント
- ⑥川内選手サイン入り「マラソンキャラバンオリジナルTシャツ」抽選プレゼント

●2019年度開催済み・開催予定

(2019年8月1日現在)

- 4月 「川内の郷かえるマラソン」(福島県)
- 5月 「錦秋湖マラソン」(岩手県)
- 6月 「隠岐の島ウルトラマラソン」(島根県)
- 7月 釧路市講演会(北海道)
- 8月 白糠町講演会(北海道)
札幌市講演会(北海道)
- 9月 「わっかない平和マラソン」(北海道)
「一関国際ハーフマラソン」(岩手県)
- 10月 「東北・みやぎ復興マラソン」(宮城県)
「高島平日刊スポーツロードレース」(東京都)
「久米島マラソン」(沖縄県)
- 11月 「吉野川市リバーサイドハーフマラソン」(徳島県)
「与那国島一周マラソン」(沖縄県)

かわうち・ゆうき

①ー ② 1987.3.5 ③ 175cm・62kg ④東京都世田谷区 ⑤学習院大 ⑥ー⑦ー

競技戦績

※ 2019年	第17回世界選手権(ドーハ)マラソン	出場(19年9月現在)
	バンクーバーマラソン	優勝
2018年	ボストンマラソン	優勝
	萬金石マラソン	優勝
2017年	ブラハマラソン	6位
	ゴールドコーストマラソン	3位
※	第16回世界選手権(ロンドン)マラソン	9位
2016年	チューリッヒマラソン	優勝
	福岡国際マラソン	3位
2015年	ニューヨークシティマラソン	6位
	チューリッヒマラソン	2位
※ 2014年	第17回アジア大会(仁川)マラソン	銅メダル
※ 2012年	第20回世界ハーフマラソン選手権(カバルナ)	21位

※太字は日本代表

青木 智美

TOMOMI AOKI

水泳・競泳
自由形



チームジャパンの自由形を けん引するオリンピック

2018年はパンパシフィック水泳選手権(東京)のリレー種目で銀、銅と2つのメダルを獲得。続くアジア競技大会(ジャカルタ)でも金2、銀1と結果を残した。19年も、7月の世界選手権で、400m、800mリレーに出場。いずれも日本の東京五輪出場権獲得に貢献した。自由形のエースとして期待が高まっている。

短水路プールが練習拠点

神奈川県内のスイミングクラブに自宅から自転車で通い、朝夕3時間、計6時間の練習。他のトップスイマーが専属コーチをつけ国際規格のプールで鍛える中、わずかに5コースの短水路(25m)プールが拠点だ。ジュニア時代から練習しているこのスイミングクラブで、他の小中高生と一緒に練習をしている。青木も「家のごはんが一番おいしいし、朝練習の後、一度帰って昼寝ができるこのスイミングクラブが一番」と、不利だとは全く考えていない。

転機は2014年の日本選手権

競技者としての転機は大学2年時の14年日本選手権(東京)。100m自由形で4位に終わり「日本代表になりたい」と目標が明確に。練習への取り組み方を変えるや、15年の世界選手権(ロシア)に初出場。800m自由形リレーで8位入賞を果たし、この種目



産経新聞社提供

で16年のリオデジャネイロ五輪メンバーに抜擢され8位入賞。17年の世界選手権（ハンガリー）では日本新記録を樹立した。18年のパンパシ水泳、アジア大会でもリレー種目で多数メダルを獲得し、まさに上昇気流に乗っているスイマー。現在の目標はズバリ、「東京五輪で表彰台に立つ」だ。

社会人選手として奮闘中

あいおいニッセイ同和損害保険では、経営企画部でスポーツ振興関連の業務を担当。スポーツを応援するプロジェクト「AD Challenge Support」のホームページ管理などに取り組む。「会社はスポーツに理解があり、競技に集中する環境をつくってくれています。仕事を覚えるのは大変ですが、社内の人たちから『頑張って』と声をかけられるのが励みです」と、競技者として、社会人として奮闘中だ。

あおき・ともみ

①ー ②1994.10.25 ③165cm・56kg ④神奈川県大和市 ⑤法政大社会学部 ⑥2017.8.1
⑦経営企画部

競技戦績

2019年	世界選手権	400mリレー 7位、800mリレー 8位
	日本選手権	100m自由形 優勝、200m自由形 3位
2018年	パンパシフィック水泳選手権	男女混合400mメドレーリレー 2位
	アジア大会	400mメドレーリレー 3位、400mフリーリレー 4位
		100m自由形 4位、400mミックスメドレーリレー 2位
		400mリレー 優勝、400mメドレーリレー 優勝
2017年	世界選手権	400mリレー 7位、800mリレー 5位(日本新記録)
2016年	オリンピック(リオ)	800mリレー 8位
	世界短水路選手権	200mリレー 8位、400mリレー 5位
		800mリレー 5位(日本新記録)
		400mメドレーリレー 4位(日本新記録)

NAO KOBAYASHI

小林 奈央

■ 水泳・競泳

バタフライ

こばやし・なお

①ー ② 1993.10.27

③ 170cm・62kg ④ 大阪府堺市

⑤ 大阪教育大教養学科 ⑥ 2017.4.1

⑦ 経営企画部



業務を競技に生かし、更なる高みを目指す



2人の姉の影響で、5歳のころから水泳を始めた。バタフライを本格的に始めたのは、小学5年のとき。泳法が自分に合っていたこと、そして「泳ぐスタイルがカッコいい!」と思ったという。

2013年のカザンでのユニバーシアード200mバタフライで銀メダル。同年に天津で行われた東アジア競技大会でも100mバタフライで銅

メダルを獲得した。15年の日本インカレは100、200mで優勝、16年の日本選手権(リオ五輪代表選考大会)でも200mで3位に入った。

競技を続けながら仕事にも打ち込める環境を探し、17年4月にあいおいニッセイ同和損害保険に入社。休日は体のメンテナンスに重点を置き、ほかの選手の映像を見るなどイメージトレーニングも欠かさない。職場の経営企画部では、周囲とのコミュニケーションで業務が円滑に進むことを学び、水泳も同じだと感じた。「仕事で学んだことを競技でも生かすなど、相互にプラスになればと思っています」。18年の世界短水路選手権で、200mバタフライで8位入賞。環境が整い、更なる目標に向かって成長している。

競技戦績

2018年	日本選手権	100mバタフライ 8位、200mバタフライ 4位
	ワールドカップ東京大会	100mバタフライ 5位、200mバタフライ 5位
	世界短水路選手権	200mバタフライ 8位
2017年	日本選手権	100mバタフライ 7位、200mバタフライ 4位
	愛媛国体	100mバタフライ 5位、400mメドレーリレー 2位

YUI NARUMIYA

成宮 唯

■ 女子サッカー

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

なるみや・ゆい

- ①ー ② 1995.2.22 ③ 154cm・43kg
④ 京都市右京区 ⑤ 福島県立富岡高
⑥ 2017.4.1 ⑦ 千葉支店



なでしこリーグ屈指の司令塔



2人の兄の影響を受け小2でサッカーを始めた成宮は、U-17日本代表主将として女子W杯ベスト8を経験。このほか各世代で代表経験を持つトップ選手だ。

学生時代は中高一貫のエリート養成校JFAアカデミー福島で研鑽を積んだ。`ポスト澤穂希、と称され、現在もなでしこ1部リーグ屈指の司令塔としてチームをけん引する。

サッカー中心の生活でリラックスタイムは、愛犬とたわむれること。ペットショップで「一目惚れして」衝動買いしたという、雌のチワプー(プードルとチワワのミックス犬)が相棒だ。

そして、リーグ戦を戦いながら千葉支店に勤務する成宮にとって、励みとなっているのが`大応援団、の存在。MS & ADグループでは年に1度「応援デー」を設けている。千葉ブロックの社員らは、成宮が所属するジェフユナイテッド市原・千葉レディースに熱い声援を送る。支援への感謝を表すべく「まずはチームで結果を残して、得点という形で個人記録にもこだわっていききたい」と、なでしこジャパン選出と世界の頂点を目指す。

競技戦績

2017年	なでしこリーグカップ ラ・マンガ国際大会	優勝 U-23日本代表
2012年	FIFA U-17女子ワールドカップ出場	U-17日本代表
2011年	AFC U-16女子アジア選手権	U-16日本代表 大会最優秀選手賞

AMI OTAKI

大滝 麻未

■ 女子サッカー

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

おおたき・あみ

- ①ー ② 1989.7.28 ③ 174cm・57kg
④ 神奈川県平塚市 ⑤ FIFA master (ヨーロッパの大学院) ⑥ 2019.3.1 ⑦ 広報部



国際派の努力家はピッチでも職場でも即戦力



小学校入学と同時に、地元の少年団でサッカーを始めた大滝。この頃から「海外でプロサッカー選手になりたい」という夢を抱き、早大卒業後の2012年、仏1部リーグの名門、オリンピック・リヨンとプロ契約を結んだ。仏では女子クラブ世界一を決める、UEFA女子チャンピオンズリーグ優勝に貢献。同時期には日本の新聞にコラムを連載、「海外組」として、なでしこジャパンにも選出された。

15年に引退を表明。国際サッカー連盟(FIFA)が運営する大学院、FIFAマスターでスポーツマネジメントなどを学んだ。卒業後、20年の大舞台を目標に現役復帰。18年にニッパツ横浜FCシーガルズ(日本2部)に入団し、いきなりリーグ得点王に輝いた。

そして19年、ジェフユナイテッド市原・千葉レディース(同1部)に移籍。同年3月、あいおいニッセイ同和損害保険に入社した。「広報部でインナーコミュニケーションを担当しています。各地の支店、支社や社員の活動などを、多様な観点から記事にして社内報webに掲載しています」と大滝。職場でも「即戦力」となっている。

競技戦績

2018年	横浜FC	なでしこ2部リーグ得点王、準優勝(横浜FC)
2013年	プロ契約	UEFA WOMEN'S CHAMPIONS LEAGUE 準優勝(オリンピック・リヨン) フランスリーグ優勝(オリンピック・リヨン)
2012年	プロ契約	UEFA WOMEN'S CHAMPIONS LEAGUE 優勝(オリンピック・リヨン) ロンドンオリンピック バックアップメンバー

AI YOKOYAMA

横山 亜依

■ 女子サッカー
愛媛FCレディース

よこやま・あい

- ① — ② 1993.6.4 ③ 160 cm・58 kg
④ 兵庫県小野市 ⑤ 筑波大体育専門学群
⑥ 2016.4.1 ⑦ 愛媛支店



家族と職場の応援を力に変え走り続ける



© 愛媛 FC

2019年ジェフユナイテッド市原・千葉レディースから愛媛FCレディースに移籍し、FW(フォワード)として活躍する横山。大学時代に出場した「第28回ユニバーシアード競技大会2015光州」で銅メダルに輝き、17年のなでしこリーグカップで優勝も経験。「つねにゴールを狙うプレーをして、チームに貢献したい」と意気込む。

サッカーを始めたのは小学3年のとき。サッカーのコーチだった父・康文さんの影響が大きいという。「家族が一番の理解者です。感謝してもしきれないです」。いまでも試合のたびに兵庫県の実家から応援に来てくれる両親と2人の妹は、心身ともに支えてくれる一番のサポーターだ。

会社では愛媛支店に所属し、庶務全般をこなして支店の運営をサポートしている。「今年のホーム開幕戦では、職場の皆さんが大応援団を結成して駆けつけてくれ、とてもうれしかったですし、パワーをもらいました」。職場の応援を力に、仕事と競技を両立させる。

競技戦績

2018年	福井国体 千葉県代表	ベスト4
2017年	愛媛国体 千葉県代表 なでしこリーグカップ	優勝 優勝
2015年	第28回ユニバーシアード競技大会(光州)	第3位

秋田 啓

KEI AKITA

車いすバスケットボール



車いすバスケットボールの魅力を伝えたい

激しい接触プレーで、障がい者スポーツの花形とされる車いすバスケットボール。今や秋田は日本代表を引っ張る存在だ。

飛躍した2017年、開花した2018年！

18歳のバイク事故で車いす生活に。「車いすですでできる競技を探している中で出会いました。本格的にバスケットをしたことはなかったのですが、チームでプレーするのも魅力でした」。車いすバスケットボールを有名にした漫画「リアル」（井上雄彦・集英社）で、以前から興味を持っていたのも大きかった。

存在感を示したのは2017年の国際親善試合「三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP2017」。持ち前の高さでシュート技術を披露。高さで劣る日本の救世主となり、同年秋の「2017IWBF アジアオセアニアチャンピオンシップス」（北京）は3位。18年は日本代表チームに定着し、「三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP2018」優勝、アジアパラ大会で、チームジャパンの銀メダルに貢献した。

片道2時間かけての練習

競技と業務の両立というキャリアプランを充実させるため、17年12月、あいおいニッセイ同和損害保険に入社。その両立を、地元の岐阜でかなえた。仕事の後に片道2時間



かけて練習場に通い、深夜の帰宅になることもあるが、充実した毎日を送っている。

「生活サイクルを整えるのと、セカンドキャリアも考えてこの会社を選びました。同僚も協力してくれて、本当に恵まれた環境で競技を続けさせてもらっています」

また事故以来、心配をかけ続けた父・義彦さんと母・明子さんら家族との時間も増えた。「足を切断しなければいけない可能性もあるなど、両親、特に母親にはたくさん心配をかけましたから」と、少し照れながら振り返った。

結果を残しファンを増やすのが使命

「2020で金メダルを目指す」一方、会社が自治体と連携して開催する各地の講演会や体験会にも積極的に参加している。「実際に見てもらえれば、より競技の魅力が伝わると思います。地域の皆さんとコミュニケーションをとることも楽しいですし、一人でも多くのファンを増やして、車いすバスケットボールを盛り上げていきたいです」。

その表情からは、日本代表としての成長と自信が感じられる。

あきた・けい

- ① 下肢障がい ② 1990.2.22 ③ 190cm・95kg ④ 岐阜県不破郡
⑤ 岐阜調理製菓高等専修学校 ⑥ 2017.12.1 ⑦ 中部損害サービス第三部

競技戦績

2018年	世界選手権(ドイツ)	日本代表 9位
	アジアパラ大会(インドネシア)	日本代表 銀メダル
	三菱電機ワールドチャレンジカップ	日本代表 優勝
2017年	北九州チャンピオンズカップ	日本代表 優勝

KOUKI TACHIKAWA

立川 光樹

■ 車いすバスケットボール

たちかわ・こうき

- ① 下肢障がい ② 1992.4.17
- ③ 155cm・68kg ④ 長崎県諫早市
- ⑤ 長崎県立諫早高 ⑥ 2017.8.1
- ⑦ 長崎支店



代表復帰を目指し、練習も業務も全力で集中



血管腫（血管奇形）の影響で生まれつき下半身に障がいがある立川が、初めて本格的にプレーしたスポーツが車いすバスケットボールだった。中学2年のとき、学校訪問に来た現在の所属チームから誘われた。幼少期から入退院を繰り返す中、病院で車いす遊びに熱中していた。プレーに重要な車いすの操作に「何となく自信があった」という、立川の予感は的中。始めて間もなくチームの中心選手として活躍するようになった。

間もなくチームの中心選手として活躍するようになった。

シュート力が武器の「ガード」を任せられ、2016年全国障がい者スポーツ大会（岩手）では、長崎県代表として全国の頂点に。17年には日本車いすバスケットボール連盟の強化指定選手に選出され、日本代表として活躍した。今シーズンは代表復帰を目指し、従来にも増して集中して練習に取り組んでいる。

職場の長崎支店では、損害サービス業務を担当。職場でも貴重な戦力として活躍する。支店の社員も立川を一丸となって応援しており、職場に一体感をもたらしている。目下の悩みは「彼女がいないこと」だが、最近は出待ちのファンも急増中だという。

競技戦績

2017年	強化指定選手に選出	
2016年	全国障害者スポーツ大会（岩手）	長崎県代表 優勝
	北九州チャンピオンズカップ	日本代表
2015年	全国障害者スポーツ大会（和歌山）	長崎県代表 3位

KATSUMI MIYAKE

三宅 克己

■ 車いすバスケットボール

みやけ・かつみ

- ① 下肢障がい ② 1971.2.4 ③ 178cm・69kg
④ 愛知県瀬戸市 ⑤ 愛知県立瀬戸西高
⑥ 2017.4.1 ⑦ 経営企画部（日本車いすバスケットボール連盟出向）



競技普及に全力を注ぐパラリンピアン



パラリンピックでアトランタ、シドニー、アテネと3大会連続で中心選手として活躍した三宅は、日本の車いすバスケットボール史に名を刻むプレーヤーだ。

「ゾーンに入る」。名選手ならではの言葉を三宅はよく口にする。国際大会などの大舞台で「脳内アドレナリンが出て、まるで自分以外の全員がスローモーションに見える」という現象。1998年に米ラスベガスで行われた大会でこれを経験し、1試合で30点以上の得点を重ね、当時世界最強だったカナダを倒した。

その後もこの体験を追い求めたが「一番いいとき」の32歳で代表を引退。第一線を退いた現在は本社の経営企画部に籍を置き、「日本車いすバスケットボール連盟」に兼務出向。全国で体験会や講演を行い、競技の普及活動に取り組んでいる。

また、社員の家族に会社への理解と親近感を促すために開催している「ファミリーデー」や地域で開催されるイベントでは講師役を務める。「楽しい」とリピーターになってくれている子ども達の姿に、普及活動の手応えを感じている。

競技戦績

2004年	パラリンピック(アテネ)	日本代表
2000年	パラリンピック(シドニー)	日本代表
1996年	パラリンピック(アトランタ)	日本代表

CHIKAKO ONO

小野 智華子

■ パラ水泳・競泳
背泳ぎ／自由形／個人メドレー

おの・ちかこ

- ① 視覚全盲 ② 1994.10.2
③ 159cm・50kg ④ 北海道帯広市
⑤ 筑波大学付属視覚特別支援学校
⑥ 2016.4.1 ⑦ 人事部



2020でリオの雪辱を期すブラインドスイマー



874グラムで生まれ、未熟児網膜症によって全盲となった小野。「子どものころから開放感のあるプールが大好きでした」。小学4年のころテレビでパラリンピックを知り、小学生ながら高校生や大学生らのパラ水泳の強化合宿に特例参加。その後も最年少で強化指定選手に選ばれた。

2008年の北京パラリンピックは背泳ぎが除外され、水泳をあきらめかけたが、家族の支えで練習を再開。背泳ぎが復活した12年ロンドン、16年リオデジャネイロのパラリンピックで連続8位入賞を果たした。18年アジアパラ大会では、2つのメダルを獲得、ハンパシパラ水泳では6つのメダルを獲得し、手応えは十分ある。

「ロンドンは出場できた喜びでいっぱいでしたが、リオは結果を残さないと、というプレッシャーにのまれてしまった。この雪辱を東京で果たしたい」

16年にあいおいニッセイ同和損害保険に入社。国家資格の「はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師」を取得し、社内の「マッサージルーム」で勤務している。「競技を続けられるのは多くの方々のおかげ。社員の方の健康維持をお手伝いしながら、感謝の気持ちを大切にしたい」と来年の雪辱を目指している。

競技戦績

2018年	アジアパラ大会(インドネシア)	100m自由形 銅メダル 200m個人メドレー 銅メダル
	ハンパシフィックパラ水泳選手権	100m背泳ぎ 優勝、100m自由形 優勝
2016年	パラリンピック(リオ)	100m背泳ぎ 8位入賞
2012年	パラリンピック(ロンドン)	100m背泳ぎ 8位入賞

中島 啓智

KEICHI NAKAJIMA

パラ水泳・競泳

自由形／バタフライ／個人メドレー



仕事と競技を両立させ世界記録更新

子どものころ病気がちだった中島は体を鍛えるため、両親に連れられ3歳から水泳を始めた。本格的に競技に参加するようになったのは小学4年から。中学に進学するとすぐに全国大会に出場。早くも大舞台でタイムを更新する楽しさを知った。

17歳で2016年リオデジャネイロ・パラリンピックに出場。200m個人メドレーで、自己ベストを2秒以上更新して銅メダル、200m自由形でも6位入賞を果たした。その後も、17年ワールドパラ水泳世界選手権、18年パンパシフィックパラ水泳選手権に出場。18年アジアパラ競技大会にも選ばれた。注目のスイマーとして大きな期待を寄せられる中、19年6月、日本知的障害者選手権の200mバタフライで世界記録を更新。20年を前に、日本のエース候補に急浮上した。

癒やしはご当地キャラ

出場したすべての大会が思い出深いという中島。ベストタイムを更新したりオでかけがえのない経験をした。「国際経験もほとんどなかったので、出発前は緊張しながら現地の情報を調べました。チームの一員として参加できたことがとても楽しく、さらにメダルを取ることでもできて、忘れられない思い出になりました」と振り返る。

17年4月、あいおいニッセイ同和損害保険に入社。現在は千葉北支店の業務推進入



タッフとして、仕事と競技を両立させている。土日や祝日も大会や練習があり、ほとんど休みはなく、趣味の時間もないという。そんな彼の気分転換は、遠征先でご当地キャラのぬいぐるみを探すこと。もちろん、競技生活を支えてくれている家族と過ごす時間も大切にしている。

目標は21歳で迎える20年の大一番だ。「パンパシフィック選手権やアジアパラ大会では、順調に仕上げることができた。今年もタイムは伸びているので、練習の手応えを感じている。そこから課題を探って2020年につなげたい」。先をしっかりと見据え、力強く語った。

なかじま・けいち

①知的障がい ②1998.11.16 ③176cm・65kg ④兵庫県姫路市
⑤中山学園高 ⑥2017.4.1 ⑦千葉北支店

競技戦績

2019年	世界選手権 日本代表	200mバタフライ 優勝 ※世界新
	日本知的障害者選手権	100m背泳ぎ 銀メダル
2018年	アジアパラ大会(インドネシア)	100mバタフライ 銀メダル 他
	パンパシフィックパラ水泳選手権	100m背泳ぎ 優勝
		200m個人メドレー 2位
		100mバタフライ 2位 他
2017年	世界選手権 日本代表	
2016年	パラリンピック(リオ)	200m個人メドレー 銅メダル
		200m自由形 6位

SATORU MIYAZAKI

宮崎 哲

■ パラ水泳・競泳

自由形／バタフライ

みやざき・さとる

- ①知的障がい ②1992.8.19
- ③180.5cm・70.5kg ④北海道札幌市
- ⑤北海道札幌高等養護学校
- ⑥2017.3.1 ⑦北海道支店



職場の励ましを受け世界へチャレンジ



180cmの長身に広い肩幅。この恵まれた肉体を武器に、生まれながらの知的障がい、自閉症、精神遅滞のハンディを抱える宮崎が世界へ羽ばたく。

「健康のため」に始めた水泳だったが、高校2年時には大きな大会(2009東京アジアユースパラゲームズ)に初出場。16年、リオデジャネイロ・パラリンピックに出場し、200m自由形で10位となった。18年、アジアパラ大会、パンパシパラ水泳選手権では、3種目で入賞した。

水泳以外でも体を動かすことが大好きだ。1日約2時間半(二部練習の時は6時間)の練習のほかに、トレーニングの一環としてランニングを課している。勤務地は北海道支店で「会社の駅伝大会で区間賞を目指しています」と毎日、北の大地を疾走している。

支店では業務推進スタッフとして、データ入力や資料管理などに取り組んでいる。物事を理解するのに少し時間はかかるが、一度覚えたことは、間違えずにしっかりこなす。そんな宮崎を同僚も励ましており、「遠征のたびに社行会を開いてくれる」と喜んでいる。

競技者としての目標は当然、16年リオ以上の成績だ。「2020では表彰台に乗りたい」と言い切った。

競技実績

2019年	日本知的障害者選手権	200mバタフライ 2位
2018年	アジアパラ大会(インドネシア)	100mバタフライ 6位
	パンパシフィックパラ水泳選手権	200m自由形 5位、100mバタフライ 5位
2016年	パラリンピック(リオ)	200m自由形 10位

ISSEI MAEDA

前田 一成

■ パラ水泳・競泳 自由形

まえだ・いっせい

- ① 左下肢機能障がい(先天性腓骨欠損)
- ② 1998.6.25
- ③ 163cm・54kg
- ④ 宮崎県宮崎市
- ⑤ 宮崎県立宮崎農高
- ⑥ 2017.4.1
- ⑦ 宮崎支店



練習も仕事も考えながらしっかりやり切る



生まれつき足に障がいがあり、子どもの頃からプールの授業は見学していた前田。水泳に挑戦したきっかけは、小学5年のとき友人に誘われた夏期水泳教室だった。「友人が『大丈夫だよ』というので挑戦しました。最初は幼稚園の子と一緒に水面に顔を付けることから始めました」

すっかり水泳が好きになり、中学で水泳部へ。2年のときに顧問の先生からパラ競泳を勧められ、初出場の県大会では優勝。高校でも記録を伸ばし、2016年ジャパンパラ100m、400mの自由形で優勝。17年ジャパンパラ50mでは日本新記録もマーク。今の目標は来年の祭典だ。

17年にあいおいニッセイ同和損害保険に入社、上司に言われた「練習を考えながら行うこと」「仕事を考えながら遂行する」「やることをやりきれば結果は後から付いてくる」という言葉を大切にしている。そんな前田を支えるのは、母・美樹さんの手料理だ。「栄養も考えた料理を作ってくれる母には、感謝しかないです」。大会前は、大好きなハンバーグとオムライスを食べる。

競技戦績

2018年	ジャパンパラ水泳 日本パラ水泳選手権	400m自由形 2位、100m自由形 4位、50m自由形 4位 50m自由形 優勝、100m自由形 2位
2017年	ジャパンパラ水泳	100m自由形 優勝
2016年	U23ワールドゲームス	日本代表

HITOKI KUBONO

窪野 一輝

■ パラ水泳・競泳

自由形／バタフライ ※2019年引退

くぼの・ひとき

- ① 視覚障がい ② 1991.10.14
- ③ 169cm・68kg ④ 静岡県袋井市
- ⑤ 筑波大学付属視覚特別支援学校
- ⑥ 2017.4.1 ⑦ 人事部



第一線を退いても、後輩をバックアップ



中学2年時に発症したレーベル病の影響で、両目ともほとんど見えない。そんなハンディを全く感じさせない、明るい性格が窪野の持ち味だ。

水泳は高校2年から開始。学校の寮でゴロゴロしていたとき、後のロンドン、リオデジャネイロパラリンピックの銀メダリストで1学年先輩、木村敬一さんから突然「水着を持ってプールへ来い」と呼び出されたのがきっかけという。2010年の広州アジアパラに、派遣ギリギリのタイムながら同門のライバルに競り勝ち出場。50m自由形で9位になったことが「一番の思い出」と振り返る。

19年に引退し、現在は社員の疲労回復・健康増進を目的に設置された「マッサージルーム」に勤務し、リーダー的役割を果たしている。大学卒業後に特別支援学校へ入り直し、鍼・灸・あん摩マッサージの国家資格を取得した頑張り屋だ。同じ職場から世界を目指す、小野智華子(パラ水泳)、石橋元気(視覚障害者柔道)のサポート役としても重要な存在だ。

競技戦績

2017年	ジャパンパラ水泳	50m自由形 4位
2016年	ジャパンパラ水泳	50m自由形 3位
2010年	アジアパラ大会(広州)	50m自由形 9位
2009年	アジアユースパラ	100mバタフライ 金メダル

TAKUYA SHIRAMASA

白砂 匠庸

■ パラ陸上

やり投げ、砲丸投げ

しらまさ・たくや

- ①左手関節離断 ②1996.7.27
- ③182cm・89kg ④広島県三次市
- ⑤広島県立庄原実高 ⑥2017.4.1
- ⑦広島支店



競技活動を地域貢献に生かす熱血アスリート



182cm、89kgと体格に恵まれた白砂は、2歳で機械に左手がまきこまれる事故で手首から先を離断。しかしサッカー、卓球などスポーツに親しみ、高校まで、健常者と競ってきた。パラ転向後は初出場の世界大会で、やり投げで自己ベストを更新し3位入賞。一方で海外のトップ選手のパワーを目の当たりにした。この時の「彼らに追いつきたい」という思いが、日々のハードな練習を支えている。

職場では「地方創生」、「地域への貢献」をテーマに業務に取り組んでいる。行政に「地域子どもたちに陸上を教えたい」と訴え、スポーツを通し共生社会について学ぶ「地域連携協定」が実現。小学校での体験授業では、子どもたちから「早く走れるようになった」などの、うれしい報告も受けている。地域住民を対象とした講演会では、競技の普及と共生社会への理解を訴求している。

競技者として忘れられない感覚は、2017ドバイグランプリで味わった「ゾーン体験」だ。自己ベストを更新して2位。「自分のリミッターが外れるような、あの体験をまた味わいたい」。19年、世界選手権日本代表に選出された。

競技戦績

2019年	パラ陸上世界選手権(投てき) 中国オープン北京グランプリ	出場 やり投げ 2位(自己新)
2018年	日本パラ陸上競技選手権大会	砲丸投げ 優勝 やり投げ 2位
2017年	Fazza IPC Athletics 選手権大会兼2017IPCグランプリ(ドバイ)	やり投げ 2位
2016年	アジア・オセアニア陸上選手権	やり投げ 3位

HIDEKI YONETSU

米津 秀樹

■ パラ陸上
やり投げ、ジャベリックスロー

よねつ・ひでき

- ① 上下肢機能障がい ② 1964.7.30
- ③ 178cm・65kg ④ 香川県高松市
- ⑤ 高松中央高 ⑥ 2016.8.1
- ⑦ 高松支店



職場の応援を受けて歩み続ける開拓者



不慮の転落事故で胸椎脱臼骨折、胸椎損傷、胸椎圧迫骨折の大けがを負い、米津は医師から「車いす生活になります」と告げられた。だが、1日4時間の過酷なりハビリに耐え、9カ月でつえ歩行ができるまでに回復。自宅療養となると、小学1年の孫からキャッチボールをせがまれた。

中学時代は硬式野球のボーイズリーグで、強肩外野手として鳴らした。全国大会で準優勝したほどのアスリートだ。孫の前で仕方なくボールを手にする「意外と投げられるやん」。この瞬間、米津は「バラスポーツの投てき種目で大会に出場する」と決意。練習環境が整わない中、着実にレベルアップしてきた。

職場では、アシストグループの業務や、高齢者の危険対策に関するセミナーの講師などを担当。「大会にも社員の方々が応援に駆けつけてくれることが、一番うれしい」。50歳を超えてもまだまだ道は開けると信じ、日々鍛えている。

競技戦績

2018年	ジャパンパラ陸上	やり投げ 2位
2018年	全国障害者スポーツ大会(福井)	ジャベリックスロー 1位、砲丸投げ 1位
2017年	日本パラ陸上競技選手権大会	やり投げ 3位

TAKUMI MATSUMOTO

松元 卓巳

■ ろう者サッカー(デフサッカー)

まつもと・たくみ

- ①聴覚障がい(混合性難聴) ②1989.8.7
- ③175cm・73kg ④福岡県糟屋郡
- ⑤九州共立大スポーツ学部 ⑥2016.6.1
- ⑦福岡支店



2021 デフリンピックでメダル獲得



松元は生まれつき聴覚に障がいがある先天性高度難聴だったが、小学3年から健常者とともにプレー。高校では全国的に有名なサッカーの名門、鹿児島実高に進学した。

4番手GKで、憧れの高校選手権のメンバー入りも目前だった。ライバルに「身長差(松元は175cm)」で敗れたが、「プロ予備軍の鹿実で3年間やってきたからこそ、今の自分がある」と胸を張る。

デフサッカーとの出会いは同高在学中に、「ろう者サッカー協会」の関係者に誘われたことがきっかけだ。すぐに頭角を現し日本代表入り。最年少で先輩たちのプレーに嫌気がさしたこともあったが、「自分が引っ張る」と決意。チームを少しずつ改革する一方、自身はデフリンピック(4年に1度開催される、聴覚障がい者の国際総合競技大会)日本代表に3度選出された。勤務先の福岡支店では、保険料の試算、保険企画策定などで営業社員をサポート。2021年デフリンピックで「背番号1でメダルを獲る」を目標に、競技と仕事を両立させている。

競技戦績

2018年	デフサッカーアジア大会予選	2位
2017年	デフリンピックサムスン大会	予選敗退
2013年	デフリンピックソフィア大会	14位
2009年	デフリンピック台北大会	12位

KOYA KATO

加藤 耕也

■ パラ卓球

かとう・こうや

- ①知的障がい ②1993.2.16
- ③170cm・63.5kg ④神奈川県横浜市
- ⑤三浦学苑高 ⑥2019.6.1
- ⑦神奈川損害サービス部



パラ卓球の有望新人が新加入



中学入学時に部活動で卓球を選んだ加藤は、22歳からパラ卓球に取り組んだ。「このパラ卓球クラス11、知的障がいスポーツを世界に広めたい」という強い意志で、2017、18年のFIDジャパンチャンピオンシップ卓球大会連覇など、輝かしい戦歴を築き上げてきた。19年2月時点の世界ランキングは7位だ。

その加藤が19年6月、日本オリンピック委員会(JOC)によるトップアスリートの就職支援制度「アスナビ」を通じて、あいおいニッセイ同和損害保険に入社した。神奈川損害サービス部で、対人事案などに関する事務処理を担当。「覚えることや文字を読むことが苦手なので、感じたことをメモに残しています」と努力を続けている。

「今こうして卓球をできることが一番の喜び。継続できることが当たり前ではない。卓球ができる感謝の気持ち、初心を忘れずに競技しています」と加藤。19年のパラ卓球は大きな大会が続くとして「常にベストを尽くして世界に届き、東京パラリンピックに出場できるように頑張ります」と、来年の大舞台に焦点を定めている。

競技戦績

2019年 ITTF Para Table Tennis スロベニアオープン
2018年 ITTF Para Table Tennis スロバキアオープン
ITTF 世界選手権
2017年 ITTF パラ卓球アジア大会

男子シングルス 3位
男子シングルス 優勝
シングルス決勝トーナメント進出
男子シングルス ベスト8、団体優勝

KYOKO EBISAWA

海老澤 京子

■ パラ卓球

えびさわ・きょうこ

- ①知的障がい ②1980.1.10 ③154cm・53kg
④埼玉県三郷市 ⑤竹下文化服装専門学校
⑥1999.1.1 ⑦人事部 (MS&AD ビジネスサ
ポート物販事業部出向)



業務と卓球をバランスよく両立



控えめで優しい笑顔が魅力的。「仕事は楽しいし、大事。影響がない程度に練習をしています」という通り、海老澤は書籍やネームプレート、就任挨拶状の発送業務を中心に週5日、フルタイムで勤務。練習は土日に集中的に行っている。

自宅近くのクラブで、同じ障がいのあるコーチに師事。「試合で緊張しない」ための精神力を植え付けてもらっている。そして、2018FIDジャパン・チャンピオンリーグでは、3年ぶりに優勝。「ツブ高ラバー（※）の無回転ショットへの対策をした効果が出ました」と満足げにほほえんだ。最近では、あいおいニッセイ同和損害保険が協賛するTリーグ加盟のT.T彩たまのイベントにも積極的に参加している。

練習がない日も「動画で世界中の卓球の試合を見ている」という海老澤。参考にしているのは、リオデジャネイロ五輪卓球女子団体の銅メダリスト、伊藤美誠さんだ。「精神面がすごいと思う。勉強になります」と全試合をチェック。「東京パラリンピックの舞台に立ちたい」という夢を実現させるため、卓球漬け、の生活を送っている。

※ツブ高ラバー 表ラバーのツブが普通よりも高い特殊なラバー。突起が高いことで、より球を受け止めやすくなり、球の回転を殺せる。野球のナックルボールのような効果を出せる。

競技戦績

2018年	FID ジャパンチャンピオンリーグ 全国障害者スポーツ大会(福井)	優勝 優勝
2017年	FID ジャパンチャンピオンリーグ	4位
2016年	全国障害者スポーツ大会(岩手)	優勝

SHINYA MANGI

萬木 信也

■ パラ・ダンススポーツ (車いすダンス)

まんぎ・しんや

- ① 下肢障がい
- ② 1977.5.20
- ③ 172cm・52kg
- ④ 埼玉県八潮市
- ⑤ 埼玉県立吉川高
- ⑥ 2005.12.1
- ⑦ 埼玉損害サービス部



パラ・ダンスの魅力を伝えたい



2013年にパラ・ダンススポーツと出会い、体で表現する楽しさにはまった。14年3月のスーパージャパンカップで3位に輝き、同年開催された仁川アジアパラ競技大会にも出場した。16年、リオ・パラリンピック閉会式では、全世界が注目する中、パフォーマンスを披露した。「海外で多くの人が活躍しているのを知り、自分も頑張ろうと思っています」と、さらなる活躍を目指している。

以前は車いすテニスをしていたが、筋ジストロフィーによる進行性の筋肉の難病を抱えており、筋肉が使えば使うほどなくなってしまふことから、ダンスに転向。トレーニングは週1回にとどめ、体の可動域を広げて表現力を伸ばす練習を行っている。

職場も、病気の進行に合わせて勤務環境を変えるなどサポート態勢を整えている。パラ・ダンススポーツを始める前は人と話すことが苦手だったが、今では小学校で講演するなど、広報活動でも活躍。積極的に人前で話せるようになった萬木は「周りからも『変わったね!』』と言われます。この競技と出会えて、本当によかった」と明るい表情で語った。

競技戦績

2019年	Asian Dance Sport Games2019	デュオスタンダード 2位
2017年	Para Dance Mainhattan Cup	デュオスタンダード 5位、ラテン 4位、シングル 6位
	World Para Dance Sport World Championships	
2014年	アジアパラ大会(仁川)	車いすダンスデュオスタイルクラスⅡ 6位 車いすダンスクラスⅡスタンダード(コンビ)出場

GENKI ISHIBASHI

石橋 元気

■ 視覚障害者柔道

いしばし・げんき

- ① 視覚障がい ② 1996.3.26
③ 170cm・73kg ④ 福岡県春日市
⑤ 福岡県立福岡高等視覚特別支援学校
⑥ 2017.4.1 ⑦ 人事部



視覚障がい者柔道を担う期待の星



小学1年時に、視野が徐々に狭くなる「網膜色素変性症」と診断された。両親のすすめで「体を少しでも鍛えるために」と、地元の柔道クラブに入門した。

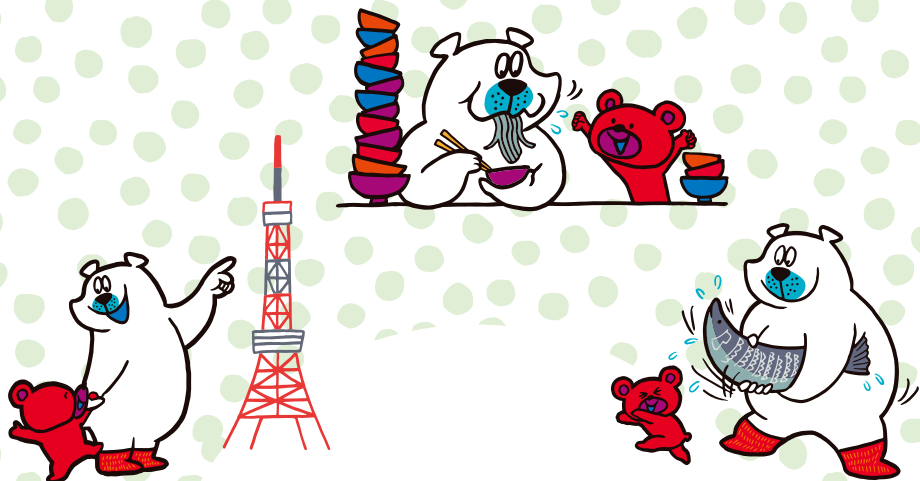
道場には泣きながら連れて行かれたこともあったというが、両親の「目が悪くなくても気持ちを鍛えて乗り越えてほしい」という思いに応え、小1から健

常者の選手と練習。中学では73kg級、高校では81kg級の選手として活躍し、高校3年時の全国大会「金鷲旗」では主将を務めた。卒業後は本格的に視覚障害者柔道に転向、全日本視覚障害者柔道大会で初出場初優勝の快挙を達成。今や、視覚障がい者の柔道界で注目される選手の一人だ。

将来、完全に失明するおそれもある進行性の病気。それでも努力して鍼・灸・あん摩マッサージの国家資格を取得。社員の健康増進に役立ちたいと、ヘルスキーパーとして勤務している。今の目標は来年に迫るひのき舞台を制すること。「競技で結果を出して、少しでも期待に応えたい」と、支えてくれる方々に恩返しをすべく、日々練習に励んでいる。

競技戦績

2019年	IBSAワールドゲームス	73kg級 日本代表
2018年	全日本視覚障害者柔道大会	73kg級 2位
	東京国際視覚障害者柔道選手権	73kg級 3位
2017年	全日本視覚障害者柔道大会	73kg級 2位
2015年	IBSAワールドゲームス(ハンガリー)	81kg級 ベスト20
2014年	第29回全日本視覚障害者柔道大会	81kg級 優勝



地域の皆さまとともに。

弊社は、地域密着を行動指針の一つとする企業経営を行っており、弊社およびグループ企業にて培ったノウハウを活かし、地方創生における「まち・ひと・しごと」の各分野において地域社会、地域企業のお役立ちに向けた支援を行っております。





WE SUPPORT CHALLENGE OF ATHLETES.

あいおいニッセイ同和損害保険は、挑戦するアスリートとともに成長していきたいという想いのもと、
全社員が一丸となって、スポーツ支援を行っています。

立ちどまらない保険。

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

Official Guide

あいおいニッセイ同和損害保険
所属アスリートガイドブック

2019年8月発行

非売品

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

本社

〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1

<https://www.aioinissaydowa.co.jp>

AD Challenge Support

<https://www.challenge-support.com>

無断転載、複製を禁じます

(190901 05-220)